> たったこれだけ! レプリケーション環境の 構築

CA Technologies





レプリケーション運用開始までの流れ





コンポーネントのインストール



CA ARCserve Replication r15が使用するポート

CA ARCserve RHA エンジン

TCP/25000 (マスタ・レプリカのプロパティで変更が可能)

CA ARCserve RHA コントロールサービス

TCP/8088 または TCP/443(設定ファイルで変更が可能)

エンジンのリモートインストール

TCP/25000, 1025, 2660, 2666 UDP/135, 137, 138

※ 上記に加えRPC(Remote Procedure Call)とWMIトラフィックの通過も許可してください





下図のようにインストールを行っています。







ウィザードベースのシナリオ作成

- ・シナリオとは ・・・ レプリケーションの実行のルール / ポリシー
- ・ウィザードベースのシナリオ作成画面の提供により、基本的なルールの作成が円滑に行える
- ・Microsoft SQL ServerやMicrosoft Exchange Serverなどのシナリオ作成時には、データベースや構成を自動的に認識するため、必要な設定を容易に行うことができる

※ プロパティの例

- ・スプールディレクトリの場所
- ・帯域幅の制限
- ・自動同期設定
- ・ 圧縮転送のOn/Off



・ファイルレベル同期モード

ファイルサーバなど、比較的小さいサイズで大量のファイルを同期するときに使う

・ブロックレベル同期モード

データベースやメールサーバなど、比較的大きいサイズで少量のファイルを同期するときに使う

・オフライン同期モード

WAN環境で大容量のデータを送る時に使う

※「同一サイズ / タイムスタンプのファイルを無視」とは?

同期処理の高速化のためのオプション ファイルレベル同期モードでのみ使用 (ファイルレベル同期の場合)デフォルトでは「オン」

